

# 令和元年度 第3回 松江市歴史まちづくり推進協議会 議事録

## ◇開催日時

令和2年2月7日（金）14時～16時

## ◇場 所

松江市役所本館西棟5階 防災センター

## ◇出席者

〈 委 員 〉 出席者：7名

氏名	所属及び役職名	分野	備考	出欠
浅田 純作	松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 教授	学識経験者	会長	出
藤居 由香	島根県立大学 人間文化学部地域文化学科 准教授	学識経験者	副会長	欠
伊藤 知恵	中心市街地活性化協議会 まちづくりコーディネーター	経済団体		出
安部 登	元松江郷土館 館長	郷土史		出
大北 哲也	島根県文化財所有者連絡協議会 副会長	文化財所有者		出
福村 敬香	NPO 法人 松江ツーリズム研究会 理事	文化財管理者		出
松本 道博	松江市公民館長会 代表（白潟公民館長）	地域代表		出
永瀬 美貴	松江市タウンレポーター	市民代表		欠
妹尾 圭人	島根県土木部都市計画課 課長	島根県		欠
萩 雅人	島根県教育庁文化財課 課長	島根県		欠※
錦織 裕司	松江市観光振興部 部長	松江市		出
早弓 康雄	松江市教育委員会 副教育長	松江市		欠

※代理出席：池淵 俊一 島根県教育庁文化財課 調整監

〈 事務局 〉 出席者：15名

氏名	所属及び役職名
須山 敏之	歴史まちづくり部長
稲田 信	歴史まちづくり部次長（兼 史料編纂課長・松江城調査研究室長）
飯塚 康行	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課長
宮本 英樹	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 埋蔵文化財調査室長
落合 年美	歴史まちづくり部 松江歴史館 事務局長
高見 保志	歴史まちづくり部 建築指導課長
門脇 晴彦	都市整備部 道路課長
楯野 一郎	観光振興部 観光施設課長
高田 俊哉	観光振興部 観光文化課 文化係長
後藤 幸広	教育委員会 学校教育課 小中一貫教育推進係長
飯塚 晃一	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 歴史まちづくり係長
山田 達也	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 景観政策係長
古瀬 雅章	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 文化財保護係長
井上 喬	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 歴史まちづくり係 主任
坂本 茉央	歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 歴史まちづくり係 主事

## ◇傍聴者

1名

## ◇会議次第

1. 開 会
2. 歴史まちづくり部長挨拶
3. 議 題
  - ①令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート(案)について [資料 2・3]
  - ②1期計画最終評価(案)について [資料〔別添補足〕・4]
  - ③2期計画(案)について [資料〔別添補足〕・5・6]
  - ④今後のスケジュールについて [資料 7]
4. その他
5. 閉 会

## ◇議事の要旨

- (1)議題① 令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート(案)について  
令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート(案)の骨子について承認した。
- (2)議題② 1期計画最終評価(案)について  
松江市歴史的風致維持向上計画 1期計画最終評価(案)の骨子について承認した。
- (3)議題③ 2期計画(案)について  
松江市歴史的風致維持向上計画 2期計画(案)の骨子について承認した。
- (4)議題④ 今後のスケジュールについて  
令和元年度進捗評価・1期計画最終評価・2期計画策定の進め方について承認した。

## ◇所 管 課

松江市 歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 電話：0852-55-5956

## ◇会議経過

〔14時00分 開会〕

## 1. 開会

**事務局（飯塚まちづくり文化財課長）**

〔開会・資料確認・傍聴時の留意事項〕

## 2. 歴史まちづくり部長挨拶

**事務局（須山歴史まちづくり部長）**

〔挨拶〕

**事務局（飯塚まちづくり文化財課長）**

〔出席状況の報告〕

藤居委員、永瀬委員、妹尾委員、萩委員、早弓委員が所用により欠席。

萩委員（島根県教育庁文化財課 課長）の代理として、島根県教育庁文化財課の池淵調整監が出席。

〔進行交代〕

それでは、ここからの議事進行は浅田会長にお願い致します。

## 3. 議題 ①令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート(案)について

**浅田会長**

それでは、次第に沿って議事を進めていきます。

まず、次第の3番目、議題①「令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート（案）について」、事務局より説明をお願いします。

**事務局（飯塚歴史まちづくり係長）**

議題①「令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート（案）について」ご説明します。〔資料2〕と〔資料3〕をご覧ください。

〔資料2〕には、計画の進行管理・評価の概要を記載していますが、資料中段のオレンジ色の枠の中に、「進捗評価」について掲載しています。「進捗評価」は、計画期間中に毎年度行う、施策・事業の進捗状況の自己評価です。今年度は1期計画の最終年度にあたるため、「最終評価」も実施した上で、令和元年度1年間の進捗状況の評価も行います。ここに記載してある「①組織体制」～「⑥その他」の評価軸ごとに、国で定められた様式に基づいて評価しています。

〔資料2〕の裏面には、今年度の進捗評価の流れを掲載しています。本日〔資料3〕と

してお配りしている進捗評価シート（案）は、現時点での暫定版ですが、年度が終わって最終的な実績を入れたものを、5月末までに国へ提出することになります。国と記載内容の調整をした後、松江市ホームページにて公開する流れとなります。

次に、[資料 3] をご覧ください。これが、現時点での進捗評価シート（案）です。表紙の次のページから、下部にページ番号が振ってあります。

1 ページ目は、「(様式 1-1) 評価軸①組織体制」について記載しています。松江市では、庁内の関連部局でワーキングチームを結成して連携調整を行いながら事業を進め、さらに本協議会において確認を受けながら計画を推進させていただいています。今年度は3回、歴史まちづくり推進協議会を実施し、必要に応じて文化財保護審議会からご意見をいただいたり、パブリックコメントを実施したりしています。

続いて2ページ目は、「(様式 1-2) 評価軸②重点区域における良好な景観を形成する施策」です。「定性的・定量的評価」欄に記載している通り、内中原町において、景観計画重点区域指定の取組みを行っています。内中原町については、平成27年度から取組みを開始し、住民アンケートや、6回に亘る住民代表との検討会議、15回に亘る住民説明会を開き、景観計画の素案を作成しました。今年度の地区総会において住民の承認を得たため、2月の松江市議会に「松江市景観条例」及び「松江市屋外広告物条例」の改正案を提案して議決されれば、令和2年度中に、周知期間を設けた後に施行する流れとなります。条例が施行されると、建築物の新築や増改築の際に、一般住宅の場合でも市に届出を出す必要が生じます。その反面で、歴史的風情に配慮した修景をする場合には、補助金制度が利用できるようになります。このようにして内中原町の景観を整えていくという流れになっております。

3 ページ目からは、「(様式 1-3) 評価軸③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項」です。

3 ページには、「史跡松江城石垣修理事業」について掲載しています。今年度は、崩落の危険性が高い月見櫓下石垣の基礎地盤造成工事に先立つ発掘調査の結果、防空壕が再発見されました。掲載してある「月見櫓下石垣保存修理工事概略図」の青い部分が防空壕の位置を示した範囲で、空洞の規模は月見櫓下石垣や興雲閣の直下にかかる部分を含んだ180㎡に及びます。これにより、今年度予定していた石垣の基礎地盤造成工事と積上げ等の石垣修理工事は、令和2年度に延期する予定としています。この防空壕については、3次元レーザー測量を行って記録保存をし、令和2年度に埋め戻す予定としています。令和元年度は防空壕の発見により進捗が遅れましたので、「進捗状況」欄は「計画ど

おり進捗していない」にチェックをしておりますが、調整の結果、当初計画していた3か年計画（平成30年度～令和2年度）の期間内には完了する見込みとなっています。

4 ページは、「史跡出雲国分寺跡整備事業」です。今年度は、2月に文化庁の補助を受けて、史跡指定地の範囲の西側の一部分を発掘調査する予定となっています。この進捗評価シートには、その結果を3月以降に反映させていただきます。「進捗状況」欄は「計画どおり進捗していない」にチェックをしています。歴まち計画1期計画の策定当初は、「計画に記載している内容」欄に記載してある通り、「国分寺跡の全容解明を目指した発掘調査を実施し、その結果をもとに復元等の整備工事」を行うことを目指していましたが、発掘調査が継続中であることと、建物の復元については現実的ではなくなっており、今後はARやVRといった映像技術の活用へ舵を切る考えであることから、「計画どおり進捗していない」という評価にしています。

5 ページは、「堀川沿線「八百八橋づくり」推進事業」です。令和元年度は2件掲載しており、1つ目は、日赤の南東に架かる「新栄橋」で、平成30年度に着工した長寿命化対策工事が完了しました。2つ目は、松江歴史館の西側に架かる「北惣門橋」です。平成30年度に設計業務に着手しており、昨年度の本協議会においては、耐用年数を鑑みて主要部材を鋼とすることを検討しているとお伝えしていましたが、石垣の保全等も考慮した結果、木橋での架け替えということで設計を完了しています。現在の北惣門橋は、平成6年に木橋で復元されたものですが、その資料を基に架け替えを行うというのが現時点での考えです。

6 ページは、「歴史的建造物保全継承事業」です。松江市独自の登録制度を設けており、今年度は2件、登録見込みとなっています。東本町の大橋川沿いに位置する「旧料亭久の家（主屋・塀）」と、塩見縄手の八雲記念館前の交差点の南側、堀川沿いに位置する「旧新橋町泉商店主屋」の2件です。旧新橋町泉商店では、かつて酢や酒を醸造していたそうです。この2件が登録されると、「松江市登録歴史的建造物」は全部で13件となります。登録物件の外観等の保全工事に対して、建築物は上限300万円・補助率3分の2以内、塀等の工作物は上限200万円・補助率3分の2以内の助成を行っており、今年度は3件、保全工事が実施されました。

7 ページは、「国宝松江城天守耐震対策事業」です。平成29年度に基本計画を策定し、平成30年度に実施設計、平成30年度から今年度に掛けて耐震補強工事を行い、完了しています。掲載している「耐震補強工実施設計内容イメージ図」をご覧ください。①は、天守5階の小屋裏に水平構面を補強するための鉄骨ブレースを取り付けたものです。②は、5階の四隅に鉄骨フレームを設置し、意匠性、登閣者の安全確保の観点から木製カバーを取り付けたものです。③は、3階の柱間の4箇所にも木格子の補強壁を設置したものです。④は、附櫓中央の大梁の脱落を防止するため、木製の添柱を設置したものです。右下の写真で、受付窓口の前に立っている柱がこれにあたります。

8 ページは、「木幡家住宅新蔵ほか2棟保存修理事業」です。宍道町の木幡家住宅の、新蔵・米蔵・三階蔵の3つの蔵の修理工事を、3か年計画（令和元年度～令和3年度）で実施しています。新蔵は半解体をしながら耐震専門診断をし、三階蔵は既に素屋根を設置して屋根工事に入っています。令和3年度にこれら3棟の蔵の竣工を目指しており、令和4年度から主屋ほか9棟の修理事業を予定しています。

9 ページは、「歴史的風致形成建造物維持保全事業」です。これは、民間所有の歴史的風致形成建造物の維持保全行為に助成を行うものです。昨年度の本協議会において指定をお諮りさせていただいた白潟天満宮について、今年度、本殿、幣殿及び拝殿の維持保全事業に対して補助を行いました。本事業の補助対象部分の工事については完了しましたので、「現在の状況」欄は「実施済」にチェックしています。なお、神社の予定では、令和2年5月24日と25日に本殿遷座祭を催行されるとのことです。

10 ページは、「伝統美観保存区域等修景事業費補助金」です。伝統美観保存区域の3地区と、景観形成区域の4地区の修景行為に対して助成を行っています。今年度は、伝統美観保存区域の塩見縄手地区（景観地区）に位置する、塩見縄手沿いの建築物及び工作物と、北堀町景観形成区域に位置する、明々庵近くの小径沿いにある工作物に対して修景補助を行っています。

11 ページは、「歴史・文化のまちあるき案内板設置事業」です。平成30年度までに22地区で案内板を設置してきましたが、今年度は設置実績なしとなっています。設置を希望する地区がない場合は、その年度は補助事業を行っていませんが、市としては制度は継続して持っていますので、「進捗状況」欄は「計画どおり進捗している」にチェックをしています。

12 ページは、「松江・歴史文化まちづくり推進事業」です。これは、住民発意による歴史的なまちなみを形成する事業等を支援するものです。具体的に現在継続しているものは「道すじ修景事業」で、堀川遊覧船が通る京橋川沿線の5つの町内において歴史まちづくり協定を締結し、歴史的な風情に配慮した建物の修景をされる場合には助成を行っています。今年度は補助事業の希望がなかったため、事業実績なしとしています。制度としては継続して持っています。

13 ページは、「松江市史編纂事業」です。市史編纂によって得られる成果は、歴史まちづくりの根本的なデータとなるものであり、歴まち計画の1期計画を策定する前から取り組んできた一大事業ですが、これがついに今年度完了する予定となっています。今年度は、史料編2巻と通史編2巻の4冊を刊行し、合計18冊の松江市史全巻が揃うこととなります。今後はこの成果を、歴史まちづくりをはじめとした市の様々な施策に反映していく取組みが求められています。

14 ページは、「松江市ふるさと文庫等製作事業」です。松江の歴史・文化をわかりやすく紹介する、市民向けの文庫等を刊行するものです。今年度は計5冊刊行する予定と

なっています。松江市史の編纂事業は今年度で完了となりますが、ふるさと文庫等の刊行は引き続き実施し、市民の学びの一助となるよう、発刊とPRに努めていきます。

15 ページは、「松平不昧公 200 年祭記念事業」です。平成 30 年度から実施していますが、今年度は「菅田庵及び向月亭」の保存修理事業が完了し、11 月には竣工披露記念茶会を開催しました。史跡及び名勝菅田庵の整備事業も今年度竣工予定で、今年の春から一般公開される予定で準備が進められています。その他、茶会やシンポジウム等の実績も記載しています。

16 ページは、「松江城授業プロジェクト」です。これは、松江城天守が国宝指定されたことを受け、市内の小学 6 年生を対象に、松江城天守の歴史的価値を理解し、松江に対する愛着と誇りの醸成及び自らの学ぶ意欲を高めることを狙いとして実施しているものです。今年度は、松江市内の 35 校の小学 6 年生、計 1,788 人を対象に、授業において松江城等の見学を行った他、学んだ成果を模造紙にまとめた 7 校の作品 8 点を松江歴史館で展示披露しています。

17 ページ目からは、「(様式 1-4) 評価軸④文化財の保存又は活用に関する事項」です。

17 ページは、「文化財の保存、修理、防災について」記載しています。「定性的・定量的評価」欄の「②【文化財の登録】」をご覧ください。今年度、「島根県庁舎本庁舎」、「島根県庁舎議事堂」、「旧島根県立博物館（島根県庁第三分庁舎）」の 3 件が、国の登録有形文化財に登録されています。次に「④【文化財の防災・防犯】」をご覧ください。国宝の松江城天守については耐震対策事業を、重要文化財の菅田庵及び向月亭については、防火・防犯設備整備事業を実施しています。また、前回の本協議会においてご質問をいただきましたが、松江城天守の防火対策につきましては、昨年 12 月 30 日から夜間の宿直人数を 2 名体制に拡充しています。さらに、天守の防災施設等の整備事業につきましては、1 年前倒しをし、令和 2 年度から実施する予定としています。

18 ページは、「文化財の活用、普及、啓発について」です。ここには、市内の資料館等や、埋蔵文化財関係の活動、実績を一覧表にまとめています。

19 ページは、「伝統行事等の伝統文化の継承」です。ここには、ホーランエンヤと鑿行列と茶の湯の 3 つを取り上げて記載しています。ホーランエンヤは、今年度の 5 月に 10 年振りに開催されましたが、松江城授業プロジェクトにおいてもホーランエンヤの学習を行っている他、松江歴史館では、企画展「次代につなぐ日本三大船神事ホーランエンヤ速報展」を開催しました。ここで訂正をお願いしたいのですが、松江ホーランエンヤ伝承館では、映像、「VR」機器等を導入し、体験型展示を行っています。権伝馬船上で撮影された 360 度 VR 動画を、VR ゴーグルをつけて立体的に視聴することができるようにしました。鑿行列や茶の湯についても、体験できる機会を設けることで、継承を図っています。

20 ページは、「松江歴史館における企画展、各種催しもの等による普及事業」です。企画展として、先程も紹介したホーランエンヤ速報展の他、大河ドラマ「いだてん」にも登場した岸清一等を取り上げています。2月21日からは、指定文化財展が始まる予定となっています。今年度が終了し、集計値等が出たところで実績を入れさせていただきます。

21 ページは、「(様式 1-5) 評価軸⑤効果・影響等に関する報道」です。ここでは現時点で21項目挙げていますが、他にも歴史まちづくりに関する報道が数多くなされています。評価としては、今年度は10年振りに開催されたホーランエンヤが大きく取り上げられたこともあり、前回は2万人を上回る38万5千人の観客を集め、外国人観光客の姿も多く見られました。また、島根県立大学の授業において、茶の湯文化や伝統行事に関する内容を取り扱っていただいたり、佐陀神能や宍道神楽については、子どもたちに体験してもらう取組みも地域で始まったりしています。さらに今年度は、文化財の防火対策への注目の高まりもあり、松江城の防火対策を1年前倒しして取り掛かることとしています。

22 ページは、「(様式 1-6) 評価軸⑥その他(効果等)」で、歴まち計画に掲載している事業の進捗状況と、観光入込客数の推移等を掲載しています。1期計画の10年間で、30の事業を実施してきました。そのうち、令和元年度にかかる事業数は14事業で、「実施中」のうちの10事業については、2期計画においても引き続き掲載し、継続していきます。「史跡出雲国分寺跡整備事業」と、1期計画の期間中に中断していた「舟つきの松公園整備事業」、未着手となっていた宍道町の「宿場町周辺の歴史的な小路整備事業」につきましては、今後事業の計画が具体的になった段階で、必要に応じて2期計画に盛り込んでいくこととするため、現段階では掲載しておりません。観光入込客数につきましては、今年度はホーランエンヤの開催もありましたので、伸びると予想していますが、今年度の集計値が出た時点で掲載致します。

23～24 ページは、「(様式 2) 法定協議会等におけるコメント」です。本協議会における「コメントの概要」と、それに対する「今後の対応方針」を掲載しています。

協議会当日に事務局から回答した内容と変わった部分は、23 ページですと、①の月見櫓下石垣の基礎地盤において再発見された防空壕について、令和2年度に埋め戻しを行い、石垣修理を実施する方針となりましたので、そのように記載しています。

続いて24ページの④についてですが、歴まち計画の2期計画では、空き家対策についても強く謳っております。松江市では、建築指導課で「松江市空家等対策計画」を策定しており、この計画の中でも、歴史まちづくりに関連した内容を掲載していますので、



第2回協議会後に、概要等の資料を委員の皆様にご配布させていただきました。

24ページの⑤では、松江城の夜間の宿直体制について、令和元年12月30日から2名体制とした旨を記載しています。

以上で、議題①の説明を終わります。

#### 浅田会長

[資料3]の17ページの「定性的・定量的評価」の欄、「②【文化財の登録】」についてお伺いします。近代建築物がたくさんある中で、今回「島根県庁舎本庁舎」、「島根県庁舎議事堂」、「旧島根県立博物館（島根県庁舎第三分庁舎）」の3件だけが登録された理由があれば教えてください。また、県立図書館をはじめとして、他の近代建築物についても今後登録される予定があるのか、もしわかれば教えてください。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

この度登録有形文化財（建造物）に登録された3件は、島根県の管財課所管の施設で、県立図書館や武道館、県民会館等は別の組織が所管する建物となっています。ただ、これらの近代建築物も、順次登録に向けての検討をしていきたいということをお伺いしております。

#### 浅田会長

近代建築群として、ひとまとまりにあれば揃っているということは珍しいと思いますので、ぜひ検討を進めていただけたらと思います。

#### 安部委員

[資料2]の「1.目的」の1つ目に、「計画にPDCAサイクルを導入する」と記載されていますが、この「PDCAサイクル」とはどのようなものでしょうか。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

「PDCA」とは、「P」は「Plan」の「P」で、「計画」です。「D」は「Do」で「実行」、「C」は「Check」で「評価」、「A」は「Action」で「改善」です。計画して、実行して、それを検証して、改善に繋げるという一連の流れを繰り返し行っていくことで、事業の改善を図っていくものです。

#### 浅田会長

[資料3]の4ページ「史跡出雲国分寺跡整備事業」の、ARやVRを使って再現をして

いくということについてです。城下町等、他の地域や他の文化財も含めて、最終的には「何年前の松江市」、「何百年前の松江市」というような形で好きな時代を選択して見ることができるようにすると良いと思います。最終的に目指す大枠を決めてから、個別のエリアや史跡等を作成していくと、後で繋ぎ合わせやすく、統一感も出るのではないかと思います。そのような計画はいかがでしょうか。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

AR・VR につきましては、観光振興部で松江城からまず着手しています。例えば、松江城の大手門や、天守の最上階から眺めた江戸時代の城下町の景色をCGで見ることができるよう、というところからまずは取り組んでいます。

出雲国分寺跡については、八雲立つ風土記の丘地内であり、国分寺跡だけでなく、国府跡等、重要遺跡が集中しているエリアです。国分寺跡では、中門や金堂、塔等、現地に実物大復元をすることが難しいものをCGで見せられるようにし、あわせて八雲立つ風土記の丘地内の国府跡等の他の遺跡も見て回れるようにしたいと考えております。

#### 浅田会長

色々な時代を選んで見ることができるようになると、楽しいのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

#### 福村委員

「大江戸今昔めぐり」というスマホのアプリで、東京の江戸時代の地図と、現在の地図を見比べることができます。先日 東京に行ったのですが、東京オリンピックに向けて町中がどんどん変わっていく中で、「ここはこういう町だったんだ」と江戸時代の町の状況を知りながら歩くことができ、歴史が好きな人にとってはとても面白いと思いました。

先程のCGやVRについても、スマホで見ることができたら、機器が備え付けてある施設に行かなくても、現地を歩きながら手軽に楽しめると思いますので、検討をお願いします。

#### 松本委員

白潟地区には小路がたくさんあるのですが、現在では色々なものが取り壊されてしまっています。自分は安部先生に教えていただいたりして、「ここには庄屋があった」とか「あの蔵はこのようになっていた」等と想像しながら歩いたりするのですが、他所から来られた観光客にとっては、よくわからないのではないかと思います。今話を聞いて、視覚化することでまち歩き観光にも繋げていただけたらと思いました。

もう1点は、白潟本町に住む同級生と今日話をしていたのですが、彼の家蔵は江戸

時代に建てられ、複数回なされてきた修理の度毎に大工の棟梁の名前が書かれている等、歴史的に価値のあるものだという話をしていました。また、別の家の通りに面した建物が取り壊されて、敷地の奥にあった蔵が望見できるようになり、「あんな蔵があったんだ」ということが、白潟本町に住んでいながら初めてわかったという話もしました。ところが、その蔵が6月頃から取り壊されると聞き、とても残念に思っています。市で何とかしてくださいというわけではないのですが、残す手立ては無いのか、文化財的価値は無いのか、商人の町として残せるものは残したいという思いがありますので、ご検討いただけたらと思います。

#### 錦織委員

ちょうど、本協議会の委員で、中心市街地活性化協議会のまちづくりコーディネーターの伊藤さんに来ていただけていますが、中心市街地活性化協議会で蔵の活用について計画がありますので、ご紹介いただけますか。

#### 伊藤委員

2月24日に、白潟界隈の蔵を回るイベントを企画しています。先程お話のあった松本館長の同級生の方の家の蔵が、今オーディオルームになっているのですが、当日はコーヒー屋さんに出店していただく予定になっています。本当は、店舗として貸し出したいというご希望が以前からあったとお聞きしていますが、今回はイベントにて使わせていただき、来られた方に「こんな雰囲気のお店を出してみたい」と思っただけのような、後に繋がるイベントになればいいなと思っながら企画しているところです。

#### 松本委員

実は今日、彼ともそういう話をしました。イベントでも使う、一番大橋川側の蔵が壊されるそうです。24日のイベントを通して皆さんに注目していただき、何とか手立てを講じることができると良いのですが。

#### 伊藤委員

白潟の界隈には蔵が22棟あるそうですが、老朽化により壊すしかないという蔵があったり、中に物がたくさん入っているので、活用したくてもどうしたらいいかわからないという所有者がいらっしゃったりします。イベントで活用したり、店舗としての貸し出し可能であれば使いたい人と繋げたりする等、ご協力できることがあればしたいと思います。

**大北委員**

「松江市登録歴史的建造物」の綿貫家住宅の蔵が昨年度修復されましたが、実際に見せていただき、土蔵というのは特に床下の部分がシロアリの巣になるのだということを感じました。床下に大量に殺虫剤を入れることで、しばらくの間であれば倒れないように処置できると業者の方は話していましたが、土蔵の保存というのは非常に難しく、また急がなくてはならないものもあっていました。

活用という面で言うと、綿貫家住宅の蔵は、保全工事は行いましたが、活用していく予定は立っていません。茶の湯文化の松江という観点から、「濡れ縁を持つ住宅」として、一部で蔵も利用した事業ができないだろうかとは考えているのですが、外部から働き掛ければ何かできるのではないかと感じました。

もう一点は、[資料3]の4ページ「史跡出雲国分寺跡整備事業」についてです。デジタル技術によって、VR等で見てもらうというのも良いのですが、国分寺跡付近の全体像についてはVR等で再現し、部分的には現地復元をしていただけると良いと思います。といいますのは、吉野ヶ里遺跡と大宰府跡は比較的近い位置にあるのですが、吉野ヶ里遺跡の方に多くの方が訪れています。大宰府跡も非常に雰囲気は良いのですが、一方で吉野ヶ里遺跡は多くの復元建物が整備されています。そういう点で、国分寺跡や国府跡には、部分的な復元も必要なのではないかということを感じております。

**事務局（飯塚歴史まちづくり係長）**

空き家や蔵の活用について、市の取組みを紹介させていただきます。先程、伊藤委員から紹介のありました蔵の活用についても、その発端は、昨年歴史まちづくり部で「リノベーションまちづくり」という新規事業を展開しておりまして、その中で「まちのトレジャーハンティング」という空き家や蔵等、これまで隠れていてみんなが気づいていないものを見つけて歩くという市民参加型のイベントを開催しました。行政が色々な支援策を持ったとしても、所有者がどう使って良いかわからない等、なかなか取っ付き難い部分がありますので、行政がまず繋ぎ役になって、やる気のある市民、建築士やまちづくりに興味のある方、学生等がグループになってまち歩きをしました。先程の話にもあった、蔵が22棟あるということも、そこで見つけられたものです。今度は活用について所有者と話し合っ、一歩ずつ始まっているという段階です。今後、歴史まちづくり部としても、そういった活用の方向で動いているという状況です。

**事務局（飯塚まちづくり文化財課長）**

国分寺付近のデジタル技術のことについてです。実物大で復元できると、非常に迫力もありますし、ランドマークにもなって非常に効果があるということは認識しております。一方で、実物大復元を国指定の史跡の中で行うのは非常にハードルが高いというこ

とと、財政的なこともございます。例えば当時の人々の暮らし振り等、デジタル技術でなければ表現できないようなものを、工夫を凝らして、よりわかりやすく再現していきたいと考えておりますので、ご理解いただけたらと思います。

#### 浅田会長

復元については、ある程度 致し方ない部分もあるかと思いますが、現存している蔵については、残ってこそ資産ですので、できるだけ残せるように手段等を考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

#### 安部委員

[資料3] の7ページ「国宝松江城天守耐震対策事業」についてです。附櫓内部石垣安全対策について記載されていますが、松江城のちょうど入口部分にあたりますので、石垣をどのように整備されるのかということが1点目の質問です。

もう1点は、受付、売店を左の方へ移転するという話が以前ございましたが、これはどのようになっていますでしょうか。この2点についてお願い致します。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

まず、附櫓内部石垣の安全対策についてです。松江城の出入口は附櫓1箇所しかなく、さらに、入ってすぐの土間の石貼のところは、両側が石垣に囲まれていて、万が一地震があつて石垣が飛び出してきたりすると、登閣者に危険が及ぶこととなります。そこで、木製の格子を石垣の前面に立てて、崩落防止をし、もし石垣が迫り出しても格子で止まるような安全対策をしようとして現在考えております。今年度、外部委員会の組織をし、基本計画を作っております。そして来年度、実施設計と工事施工の予定としております。できるだけ見た目に違和感が生じないようにするため、自然素材の木製の格子とし、また格子の間隔があまり密にならないようにして、石垣がきちんと見えるように整備していきたいと考えております。

#### 事務局（楢野観光施設課長）

2点目の質問の、附櫓の売店の受付位置についてです。現状の位置と変えずに、対応ができるようになりました。耐震の柱を入れた時に、受付の窓口に支障があるのではないかということもありましたが、受付のスペースを少し広げることで窓口も十分確保できることとなりましたので、現状の位置で売店の営業をさせていただきます。

#### 浅田会長

それでは、議題①「令和元年度松江市歴史的風致維持向上計画 進捗評価シート（案）」

について」は、国への提出までに、事務局で修正を行っていただくこととなりますが、ご承認いただいてよろしいでしょうか。

( 承認 )

### 3. 議題 ②1期計画最終評価(案)について ③2期計画(案)について

#### 浅田会長

それでは次に、議題②「1期計画最終評価(案)について」と、議題③「2期計画(案)について」でございますが、この2つの議題につきましては、第2回協議会において原案の承認を受けていますので、その後に変更された箇所等を中心に、事務局より一括して説明をお願いします。

#### 事務局(飯塚歴史まちづくり係長)

議題②「1期計画最終評価(案)について」と、議題③「2期計画(案)について」、説明を致します。[資料4]が最終評価シート(案)、[資料5]が松江市歴史的風致維持向上計画(第2期)(案)、[資料6]が松江市歴史的風致維持向上計画(第2期)【概要版】(案)です。なお、資料番号は振っていませんが、補足資料として別添で「最終評価シート(案)・2期計画(案) 主な変更点【2020.1.31時点】」というA4サイズの資料1枚を併せてお配りしています。これには、前回の協議会時点からの主な変更点をまとめています。

まず、議題②「1期計画最終評価(案)について」から説明致します。

[資料4]の最終評価シート(案)については、文言修正、誤字脱字の修正等を行っていますが、大きな内容変更はしていません。

別添資料には、主な変更点として1点挙げています。[資料4]の22ページの「②協議会におけるコメント欄」に、前回の協議会で委員の皆様からいただいたご意見を加えています。

次に、議題③「2期計画(案)について」、ご説明致します。[資料5]の松江市歴史的風致維持向上計画(第2期)(案)をご覧ください。

前回の協議会において、計画に掲載している写真についてのご意見をいただきましたので、差替えや追加をしています。まず、表紙に写真を追加しています。この写真は、国宝松江城天守と城下町をバックに、ホーランエンヤの權伝馬船が映ったものです。

次に1ページをご覧ください。ページの上部のヘッダー部分に青い帯で、計画名と章番号、章名を加えています。

「1.写真の差替え・追加」については、主なものを紹介します。123ページの「史跡

松江城」の写真の画質が悪かったため、新たな写真に差替えています。それから、131ページの「国宝松江城天守」の写真の差替え、167ページの不昧公の肖像画の差替え、176ページに「楽山焼」、177ページに「布志名焼」の焼物の作品写真の追加をしています。199ページ以降の、宍道町の「近世山陰道の宿場町に見られる歴史的風致」については、近世山陰道と小路、木幡家住宅、氷川神社の写真を新たなものに差替えています。216ページは「宍道湖七珍」の写真の差替え、「ジョレン」の写真の追加をしています。以上が主なものですが、他にも最新の写真に差替えられるものについては、更新を行いました。

次に「2. 文章、文言の修正・追加」についてです。

①59ページからの、「出雲国府跡周辺に見られる歴史的風致」における神魂神社の「禱家神事」について、新たに取材をし、詳しく内容を追記して、写真も一部追加しています。

②と③は、「美保関のみなと文化に見られる歴史的風致」についてです。

②92～93ページで、美保神社の境外末社について、10年前に策定した1期計画では12社と記載していましたが、美保神社の二の鳥居横にある末社を加えて「13社」に修正しました。114ページと259ページの図においては、それを反映させています。

③100ページ的美保関灯台の設計者について、「石橋絢彦」と記載していましたが、国土交通省の資料等から「黒田喜隆」に修正しています。

④～⑥は、「鑿行列に見られる歴史的風致」についてです。

④151ページの、上段の写真のキャプションを『「鑿庫」(左)に保管される「鑿台」(右)〔北寺町〕』としていましたが、『「松江鑿伝承館」(左)に保管される「鑿台」(右)〔寺町〕』に修正しました。

⑤154ページに、この鑿伝承館の紹介を追記しています。鑿伝承館には、遠征をして披露する場合や鑿たたき体験をする場合等に活用される鑿が展示されています。側面の窓から、鑿や鑿宮を外からも見ることができる他、モニターで鑿行列の様子が紹介されており、鑿行列保存会によって管理されています。

⑥155ページの地図中の写真のキャプションも、「松江鑿伝承館」に修正しています。

⑦167ページ「茶の湯文化に見られる歴史的風致」における不昧公縁ゆかりの「茶釜供養」に関する建造物として、月照寺境内にある「大圓庵(松平治郷)廟門」について追記しています。

⑧～⑩は、第3章になりますが、関連する松江市の計画を掲載しています。前回の本協議会でご意見をいただいた、⑨「松江市空家等対策計画」、⑩「松江市地域防災計画」についても、231ページ、239ページにそれぞれ追記しています。

⑫286ページは、第4章のうちの、「地域産業資源及び近代化産業遺産」として、2段

落目に「ふるさと名物応援宣言」、3段落目に「近代化産業遺産」として美保関灯台を追記しています。

次に「3. 図の修正」については、主なものを紹介します。

52 ページに掲載している「史跡出雲国府跡周辺」の写真上に、51 ページに掲載している「史跡出雲国府跡」の地図に合わせて、古代道のラインを引きました。

134 ページの「ホーランエンヤ巡行図」と、146 ページの「歴史的風致のエリア図 ホーランエンヤに見られる歴史的風致」で使用している都市計画図について、解像度が低いというご指摘を前回の協議会でいただきましたので、地図を差替えました。

次に「4. ふりがなの修正」についてです。

①と②は、佐陀神能に関するものです。

①85 ページの「式三番」のふりがなを「しきさんばん」と振っていましたが、「しきさんば」に修正しました。

②86～87 ページの「日本武」のふりがなを「やまとたける」と振っていましたが、「やまとだけ」に修正しました。

③は、ホーランエンヤに関するもので、前回の協議会において、「陸船」の正式な読み方は「りくせん」か「りくぶね」ということでご質問をいただいていた。事務局に確認しましたところ、通常は「りくぶね」という回答でしたので、132 ページと 140 ページのふりがなを「りくぶね」に修正しました。

次に「5. 2 期計画【概要版】(A3 版 3 枚)」についてです。[資料 6] の概要版をご覧ください。計画の概要版については、松江市のホームページで公開するよう国から求められていることに加え、前回の協議会においてもわかりやすい概要版が必要ではないかというご意見をいただいております。

[資料 6] の 1 枚目の「松江市の維持向上すべき歴史的風致」については、1 期計画と内容は変わりませんが、写真の差替えや、地図上の固有名称等にふりがなの追加をしています。

[資料 6] の 2 枚目と 3 枚目は、「松江市の重点区域における施策・事業概要」です。2 期計画には今回、20 事業を掲載していますが、新規事業には左上に赤枠で「新規」と載せています。事業名の後に赤い文字で事業期間と財源を掲載しています。また、旧城下町エリアについては、重点区域の範囲を拡大して菅田庵を含む範囲としましたので、それを反映させています。

それから、最終評価と 2 期計画については、前回の協議会後に修正を加えたもので、



パブリックコメントの募集をしています。期間は、1月20日から2月10日までです。同時進行で、文化財保護審議会委員にも意見照会を行い、市役所庁内の関連部局に内容確認の照会を掛けているところです。

パブリックコメントと、文化財保護審議会委員からのご意見で、現段階で出ているものを紹介させていただきます。

パブリックコメントは、現在1件ご意見をいただいています。内容は、歴まち計画に島根町を加えていただきたいというものです。島根町には、出雲国風土記の時代から戦国時代、江戸時代、そしてホーランエンヤ、ラフカディオ・ハーンに因む歴史や遺跡があるので、これらの資源を使ってまち歩きコースを整備することで、島根町の歴史的風致の維持向上に貢献するのではないかというご意見をいただいています。

広い松江市域の中には、重点区域や歴史的風致として挙げられていない地域もございますので、ご意見としてはごもっともかと思いますが、歴史的風致を形成するための建造物と活動、市街地環境、さらには具体的な事業が今後あるかどうかということも含めてストーリーを構築しています。前向きなご意見をいただいたところですが、具体的な事業が必要になった段階で検討させていただきたいと思います。ただ、現在も住民提案型の「松江・歴史文化まちづくり推進事業」等を設けておりますので、まずは協働の事業から始めさせていただき、追加については2期計画の途中段階で考えさせていただきたいと思っております。

次に、文化財保護審議会委員からのご意見についてです。主なご意見を紹介すると、現在、松江市の歴まち計画は、古代と近世に特化されており、中世等のその他の部分が欠落してしまっているのではないかとご指摘をいただいています。10年前の1期計画策定時以降、市史編纂事業が進み、当時はまとめられていなかった歴史が明らかになってきています。いただいたご意見はごもっともなご指摘だと思います。ただ、本計画は歴史まちづくり事業の採択を受けるために必要となる部分に重きを置いて記載させていただいていることもあります。第2章「松江市の維持向上すべき歴史的風致」の「はじめに」の部分等、それぞれの地域の歴史、概要について時代を追って記載している部分に、ご指摘をいただいた中世等、関連する史実が明らかになっている部分は追記するという対応を現在考えているところです。

説明は以上です。

#### 萩委員代理：池淵調整監

1期計画から2期計画へ引き継がれない事業として、「舟つきの松公園整備事業」、「史跡出雲国分寺跡整備事業」、「宿場町周辺の歴史的な小路整備事業」の3事業とのご説明がありました。具体的な計画があれば、2期計画の事業に掲載するというお話だったと思

うのですが、「史跡出雲国分寺跡整備事業」について、島根県の方でも確定はしていないものの、今後 八雲立つ風土記の丘整備を松江市と協力して進めていきたいと思っております。PDCA サイクルを導入し、1 期計画でできなかったところを検証して 2 期計画に反映するというのが本来の考え方だと思うのですが、敢えて「史跡出雲国分寺跡整備事業」を 2 期計画に掲載されなかった理由と、今後の考え方についてご説明いただけますでしょうか。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

1 期計画の中では、「史跡出雲国分寺跡整備事業」について「復元等の整備工事等を行う」という書き方をしています。現在、出雲国分寺跡では、史跡の指定地範囲外のところで、本来の国分寺境内の範囲を確定していくという作業をしています。調査は引き続き進めていく予定としており、また AR・VR 等についても進めていくのですが、復元等の整備工事については、なかなか具体的な計画が現段階では提示できない状況ですので、現在 2 期計画においては掲載していません。但し、2 期計画も 1 期計画と同様に 10 年計画で、毎年度見直しを掛けていきますので、具体的な計画が出てきた時点で、追加で事業掲載したいと考えています。

#### 萩委員代理：池淵調整監

細かいことなのですが、[資料5]の松江市歴史的風致維持向上計画（第2期）の50ページに掲載されている「意宇平野周辺の遺跡分布図」の「きたにまがれるみち 枉北道（推定）」と、51ページ「史跡出雲国府跡」、52ページ「史跡出雲国府跡周辺」の「おうほくどう 枉北道（推定）」の点線の位置が異なっているので、統一された方が良いでしょう。50ページの枉北道は、ちまた 十字街から北に向かう途中でグニャッと曲がっており、これは最新の歴史地理の研究に従ってこのルートにしていると思うのですが、51、52ページの枉北道は、まっすぐ北に延びて山に突き当たっていますので、整理された方が良いでしょう。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

50ページの推定ルートに合わせて、51、52ページの点線も修正したいと思います。ありがとうございます。

#### 浅田会長

それでは、議題②「1 期計画最終評価（案）について」、議題③「2 期計画（案）について」は、国への提出までに、事務局で必要な修正をしていただきますが、承認ということよろしいでしょうか。

（ 承認 ）

### 3. 議題 ④今後のスケジュールについて

#### 浅田会長

それでは次に、議題④「今後のスケジュールについて」、事務局より説明をお願いします。

#### 事務局（飯塚歴史まちづくり係長）

議題④「今後のスケジュールについて」、ご説明致します。[資料 7]をご覧ください。進捗評価・最終評価・2期計画策定のスケジュールを掲載しています。

令和元年度の2月7日のところが、本日の第3回歴史まち推進協議会です。本日ご承認いただいた最終評価と2期計画については、2月末までに国へ提出する予定となっています。3月中に国と内容の最終調整をし、3月末に2期計画の認定の結果がわかることになっています。その後、委員の皆様にお知らせをさせていただき、松江市のHPで公開する予定です。

今年度の歴史まち推進協議会については、本日で最後ということになります。

以上で説明を終わります。

#### 浅田会長

それでは、議題④「今後のスケジュールについて」は、承認いただいたということでしょうか。

（承認）

### 4. その他

#### 浅田会長

続きまして、次第の4番目、「その他」について、事務局から何かありますでしょうか。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

事務局からお願いと事務連絡をさせていただきます。

まず、本日お諮り致しました、最終評価及び2期計画の最終原稿の作成と国への申請手続きにつきましては、スケジュール等を考慮致しまして、今後の微修正に関しましては、浅田会長と事務局に一任いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

（承認）

ありがとうございます。それでは、そのように手続きをさせていただきたいと思えます。

なお、本年度の協議会につきましては、今回が最後の予定となっております。最終評価と2期計画につきましては、国の認定結果がわかり次第、委員の皆様へご報告をさせ

ていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。以上です。

#### 浅田会長

それでは、本日の議事は以上となりますが、最後に、皆様から全体を通してご意見やご質問はございますでしょうか。

#### 安部委員

城山の、興雲閣の前から島根県庁側へ降りる石段のところにある冠木門<sup>かぶき</sup>の柱の根元が腐食しており、いつ倒れるかわからない状況です。あの門が倒れると、ずっと下の堀まで落ちてしまいますので、対策を検討していただきたいと思っております。

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

現地の状況を確認し、対応したいと思っております。観光施設課では、来年度は西門の修理を予定しています。

#### 浅田会長

それでは、以上で事務局の方へお返しします。皆様のご協力、ありがとうございました。

## 5. 閉会

#### 事務局（飯塚まちづくり文化財課長）

浅田会長には、円滑な議事運営をいただき、誠にありがとうございました。

なお、本日の協議会は議事録を作成し、公表致しますが、議事録の確認は浅田会長に一任させていただくということでよろしいでしょうか。

（承認）

ありがとうございます。

委員の皆様には、本年度も大変お世話になりましたこと、厚くお礼を申し上げます。

それでは、以上で令和元年度第3回松江市歴史まちづくり推進協議会を閉会致します。ご協力ありがとうございました。

〔16時00分 閉会〕

上記議事録内容に間違いはありません。

署名者氏名

印